



支部だより

北海道支部

2006年夏季研究発表会(室蘭)

日本化学会北海道支部研究発表会は、夏季は日本化学会北海道支部が主催で日本分析化学会などの各学協会北海道支部が共催で行い、札幌以外の道内の各都市(旭川、苫小牧、函館、北見、室蘭、釧路/帯広など)で毎年7月に大学または高専を会場にして行われる。また冬季の研究発表会は日本分析化学会北海道支部が世話役になり、日本化学会北海道支部などの各学協会北海道支部が合同で1月末または2月上旬に札幌市(北海道大学)において開催される。

研究発表・支部総会・特別講演

2006年の夏季研究発表会は、7月22日(土)午後、23日(日)午前の両日、室蘭工業大学において開催された。研究発表121件、特別講演2件、参加者248名(一般市民22名含む)で行われ、活発な質疑応答と討論がなされた。

1日目の研究発表会終了後、特別講演会に先立ち支部総会が開催され、魚崎浩平支部長より北海道支部の現況と活動報告がなされた。その後、太田暉人本部常務理事より本部の概況説明がなされた。

総会終了後の特別講演では、藤嶋 昭氏(日本化学会会長、(財)神奈川科学技術アカデミー理事長、東大名誉教授、演題:研究開発にはセンスと雰囲気、それにプラスアルファが大切:光触媒を例にして)と中山秀明氏(新日本製鐵(株)室蘭製鐵所総務部長、演題:製鐵所におけるプラスチックリサイクル)の2名を講師としてお招きしご講演をいただいた。

藤嶋会長の特別講演では「本多-藤嶋



特別講演をされる藤嶋 昭会長

効果」の発見とその後の光触媒への展開を紹介していただいた。講演では科学的観点ばかりではなく歴史上の偉人たちの名言も多く引用され、藤嶋先生ご自身の人生哲学も披露していただいた。

中山氏の講演では鉄鋼産業の現状と製鐵所における廃プラスチックの有効利用などについて幅広く紹介していただいた。

なお、特別講演会は一般市民、高校生などにも無料開放して行われ、日本化学会に対して大きな関心を持っていただいたものと思っている。

また、北海道支部夏季研究発表会の長い歴史の中で、日本化学会会長が自ら特別講演の講師をお引き受け下さり講演をしていただいたことは小生の記憶にはなく、おそらく今回が初めてであろう。そのような意味でも2006年度の室蘭での夏季研究発表会は北海道支部の歴史に残るものであり、学会参加者の記憶にも永くとどまることと思う。

懇親会・懇談会

懇親会は室蘭工業大学学生会館多目的ホールで行われ、招待者を含む75名が参加し、会長をはじめ会員相互の親交を

さらに深めた。

懇親会終了後、ホテルサンルート室蘭にて、会長と本部理事を囲んで地元企業、支部役員などの懇談会が開催された。この懇談会は藤嶋会長の要望により実現したものであり、北海道の工業都市である室蘭で実現したことは意義深い。地元室蘭の企業として新日本製鐵、日本製鋼所、三好製作所などが懇談会に参加し、会長との交流がなされた。このことも2006年北海道支部夏季研究発表会における新しいイベントの1つである。この会長と地元企業との交流を通して北海道における法人会員数が増加し、北海道支部の活動がより活発になることにつながれば幸いである。

会場費節減

一方、2006年度の支部夏季研究発表会は初めて世話役大学の後援(今回は室蘭工業大学後援)という形をとったので、会場借料はゼロであった。もし〇〇大学後援としなければ、法人化後の大学の事業収入のため、それなりの額の会場借料を支払う必要があった。したがって、今後、各支部の研究発表などで大学を使用する場合は、経費節減のためにもこのような措置をとることも考慮しなければならないであろう。

最後に本年度の夏季研究発表会にご協力していただいた関係各位に深く感謝いたします。

[2006年夏季研究発表会実行委員長 杉岡正敏(室蘭工業大学教授)]

©2006 The Chemical Society of Japan